

An underwater-themed illustration featuring two glowing jellyfish with long tentacles swimming in a blue, bubbly environment. The background is filled with soft blue light, bubbles, and starburst patterns, creating a serene and aquatic atmosphere.

SANSHIN GROUP
Monthly Report on the ESG
Jul.2022

INDEX

1. TOP MESSAGE
2. グループ社員による今月のつぶやき
3. ESG Report（品質）
4. ESG Report（環境）
5. ESG Report（地域貢献とワーク・ライフ・バランス）
6. サンシングループの経営理念とCSR
7. 経営戦略体系と管理会計のかかわり
8. サンシングループの社会的責任
9. サンシングループの企業行動基準
10. サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ
11. 未来形から問題を解決するソウレンハウ

TOP MESSAGE

6月19日午後、石川県能登地方で強い地震があり、珠洲市で震度6弱を観測し、一夜明けた20日にも再び珠洲市で震度5強を観測する強い地震がありました。実はこれに関しては、一昨年12月頃から地域の地盤が3センチほど隆起するという観測がされていたようです。国は日本列島上のプレートのひずみなどによる地盤の動きを監視するために、全国約1300箇所に電子基準点と呼ばれるGPSアンテナ機器を設置し、この位置情報を利用することで地震発生の研究に役立てようとしているらしい。

専門家の間では地震を予知することは不可能だとする意見もあり、この3センチの隆起が本当に今回の地震と関連があったのかは不明確であるという。しかし、我々の日々の業務や生活においても、関係ないと思われるような小さな変化であってもこれに気づく感度の高さや継続的な情報連携、迅速な対策が大切だと実感する。

事前準備などを心掛け、今後も業務に臨みたいと思う。

サンシン電気株式会社 執行役員
清原 幸雄

グループ社員による今月のつぶやき

SANSHINEast

コロナ第7波だそうです。他の感染症では、何度かピークが発生し、徐々にピークの頂点が下がり、終息に向かっていくのですが、新型コロナはピークを迎えるたびに上限値が高くなっています。今までの感染症とは中々趣が違うようで、確実に抑え込むことは難しいのが現状です。手洗い・うがい、マスク着用、よく食べよく寝る。今一度基本をきっちり行っていきましょう。(Y.Y.)

SANSHIN Hong Kong

香港にはショッピングセンターなどにペットボトル回収BOXが併設されています。空のペットボトルを挿入すると、ICカードにチャージが可能です。まだまだ運用段階かと思いますが、積極的に活用できるよう、広めていきたいと思えます。(W.A.)

CSI

CSIでは毎年環境保護を目的に植林を行っております。今回は2019年4月27日に行いました。20年21年はコロナの影響で延期となっております。22年度の場所と時期の選定（どの場所が必要とされ、空いているか）の確認作業を行っております。(K.S.)

SANSHINWest

「6月下旬より真夏日のニュースが連日報道されていました。電力不足の問題があるものの、熱中症対策としてエアコン使用推奨されています。体調に支障をきたさないよう対応策はもちろん必要ですが、温暖化の根本的な解決に向けて個人が実践できるような方法を紹介するような報道が増えればとも感じています。(Y.S.)

SHINKOWA

猛暑日が続いたり、梅雨の戻りがあったり、今年も夏の気候が不安定みたいです。今後台風や日照不足など無いと良いのですが、作物も天候により育成不良で高騰しますので、順調に育てほしい所です。この辺ももう少ししたら、梨の収穫が始まります。できるだけ安く美味しいものが出回りますように！(M.N.)

SC2

「自然が好き」な人も色々です。「自然を守る人」「自然に敬意を持つ人」「自然に感謝する人」「自然を利用する人」「自然を消費する人」「自然を搾取する人」...これ、口を開けば全員が「自然が好き」と表現するのです。見分けるにはその人の言葉ではなく行動を見ることです。自分の内側にも色々な面があるでしょう。時々見つめてみるのも良いと思えます。(M.I.)

ESG Report (品質)

サンシングループの品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動を行い、社会へ貢献していくために、以下の品質方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを遵守し、お客様に信頼される品質の提供に努めて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して品質の向上に努めて参ります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査及びマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善を図って参ります。

品質への取り組み

要因分析

<品質管理の基本である5M>
Material (材料)、Machine (製造機械)、Method (製造方法)、
Man (担当者)、Measurement (計測)

段取り

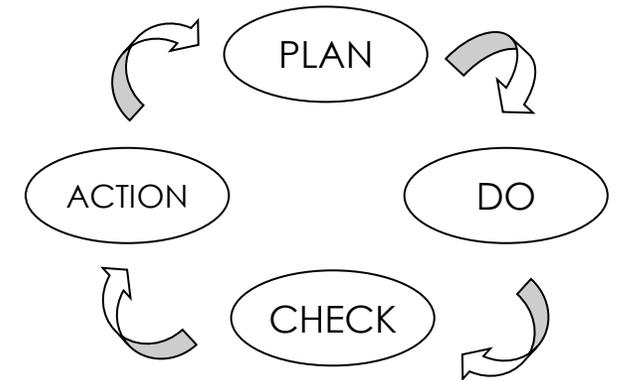
<仕事の段取り5W3H>
5W : When (いつ)、Where (どこで)、Who (だれが)、What (なにを)、Why (なぜ)
3H : How (どのように)、How much (いくら)、How many (どのくらい)

行動

<製造の基本である3現主義>
現場、現実、現物

管理

<品質管理の基本はロット管理と変更管理>



- EMS先との継続的な品質会議の実施。(1回/月)
- 定期監査の実施。(1回/1年)

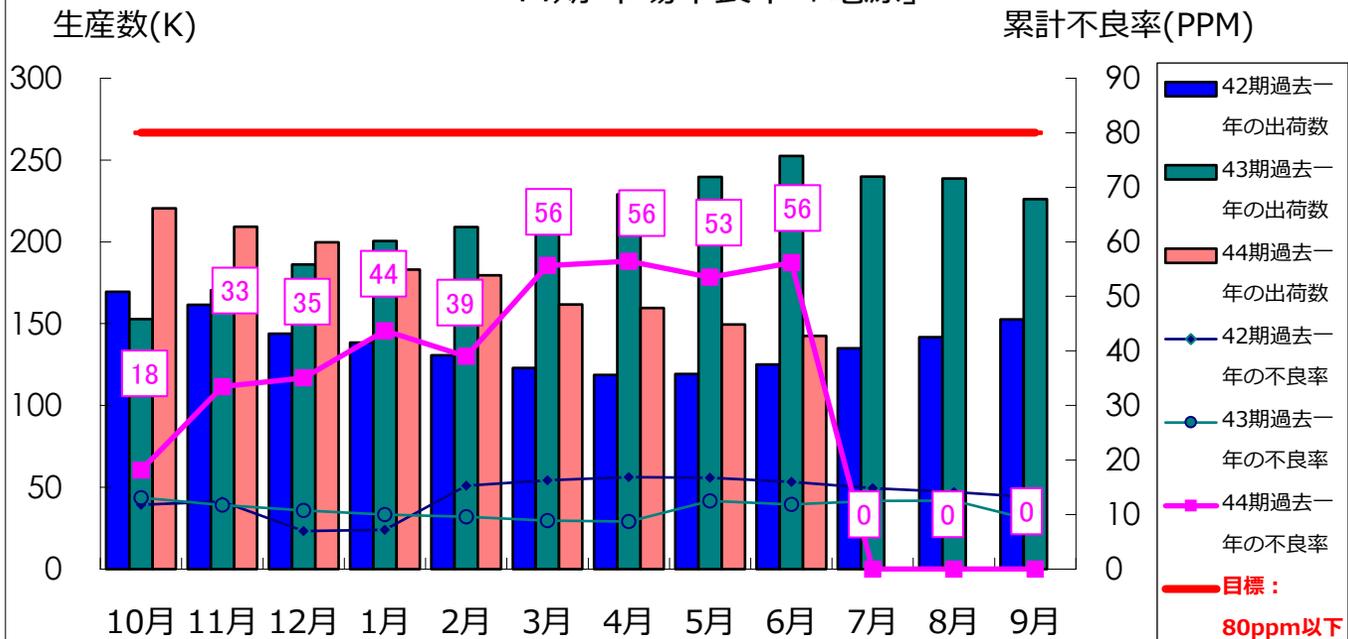
* 最も大事なのが、継続させるための「**個人の意志**」である。

品質状況

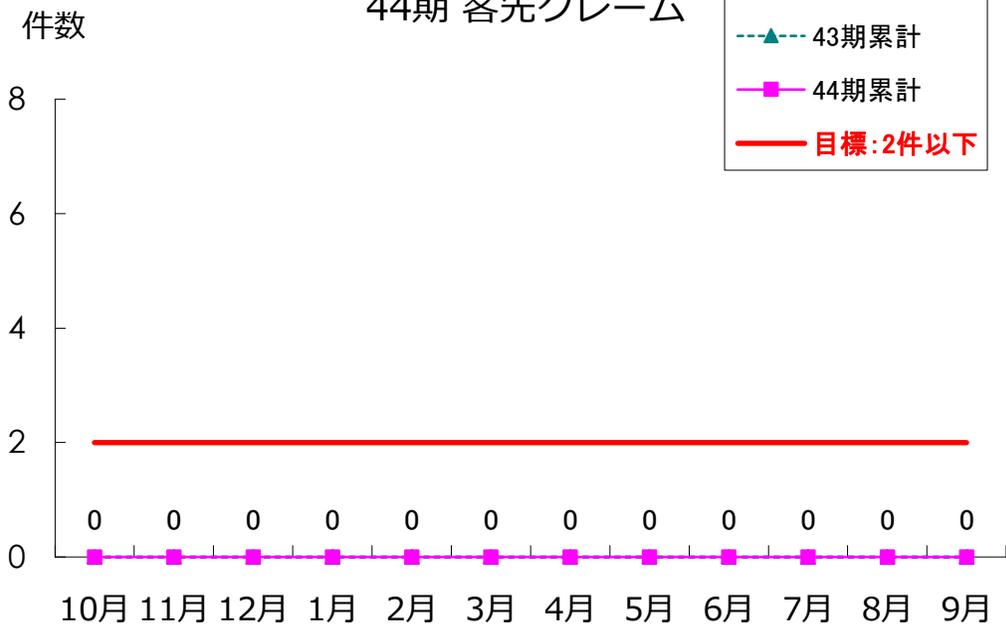
納入不良率 目標 80ppm

44期の累計不良率(解析含む) : 56ppm
 客先クレーム (目標 : 2件以下) : 0 件

44期 市場不良率「電源」



44期 客先クレーム



ESG Report (環境)

今月のTOPICS

■ サプライチェーン排出量の計算方法（後編）

先月はサプライチェーン排出量の概要について取り上げましたが、今回はサプライチェーン排出量の算定方法について取り上げます。2050年カーボンニュートラル宣言に向けて非常に重要な活動となりますので、ぜひ参考にして下さい。今回は前回の続き、スコープ3の計算方法をご紹介します。

☑ スコープ3の計算方法

「スコープ3」は「サプライチェーンにおいて、自社以外で排出される温室効果ガス」のことを指します。



図：環境省HPより

☑ スコープ3の計算方法

「スコープ3」は社外での排出になる為、「取引先に全て確認する必要があるが大変ではないか？」と考える方も多いかと思えます。

しかし取引の物量や金額で算出できる「簡易的な算定方法」でも算定は可能で環境省からも推奨されています。詳しくは後述しますが、まずはこの「簡易的な算定方法」から始めてみましょう。「スコープ3」は「サプライチェーンにおいて、自社以外で排出される温室効果ガス」のことを指します。

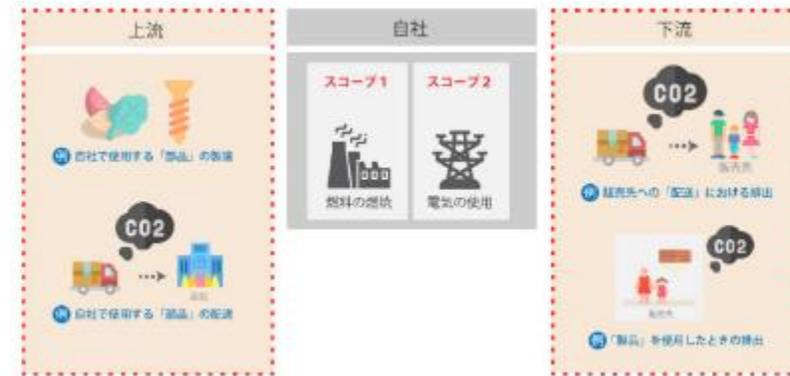
今月のTOPICS

☑ 「スコープ3」は「上流」と「下流」に分類される

「スコープ3」は「上流」と「下流」に分類されます。上流と下流は、以下のように考えると理解しやすいと思います。

上流：自社が仕入れている物の製造などで排出される温室効果ガス

下流：自社が販売した先で排出される温室効果ガス



図：環境省HPより

☑ さらに「15のカテゴリ」に分類される

「スコープ3」は更に15のカテゴリに分類され、カテゴリ1～8は上流、カテゴリ9～15は下流に分類されます。

この各カテゴリをそれぞれの計算式で計算し、最後に合算することで「スコープ3」の排出量が算出できます。



図：環境省HPより

今月のTOPICS

☑ 「スコープ3」算定の「基本式」

「スコープ3」は、カテゴリごとに計算式が異なるのですが、計算方法の基本的な考え方は同じです。

「スコープ3の基本式」



図：環境省HPより

☑ 「活動量」とは？

基本式に使用される「活動量」とは、CO2排出量を算定する為に、物量や金額などの「その事業活動の活動量」を把握する為の数値です。

例1:購入した部品の活動量

その部品の「重量」または「金額」を活動量として、「排出原単位(後述)」を掛け合わせることで、排出量が算出できます。

例2:配送の活動量

配送において「使用した燃料の量」を活動量として、「排出原単位(後述)」を掛け合わせることで、排出量が算出できます。

この「活動量」は、カテゴリごとに異なって来ます。

今月のTOPICS

☑ 「排出原単位」とは？

「排出原単位」とは「活動量」を元に、CO₂がどれほど排出されるのかを計算する為の数値です。分かりやすく言えば「スコープ1」や「スコープ2」でご紹介した「炭素排出係数」のようなものだと考えて頂ければ分かりやすいです。こちら各カテゴリや、各活動量によって数値が異なって来ます。

スコープ3の計算式は、「活動量」と「排出原単位」を掛け合わせることで算出できます。

※「排出原単位」は環境省から発行されている「排出原単位データベース」に記載されています。

◆この方法は「簡易的な算定方法」

紹介した方法は、前述のように「あくまで簡易的な算定方法」です。上記の式に用いられる「排出係数」は、業界の平均値などを参照したものであり実際の排出量とは異なる可能性があります。

◆なぜ「簡易的な算定方法」を用いる？

実測値を元に、取引先などに情報提供を依頼してスコープ3を算定する場合 算定の労力・コストの増大も懸念されることから、まず「全体像を把握する為の方法」として、環境省から推奨されています。

サンシングループの環境方針

サンシングループは、環境の保全と向上に関する企業活動を重要なCSRと認識し、継続企業の責務として、将来に渡り環境の保全と向上に貢献していくために、以下の環境方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も環境マネジメント・マニュアルを遵守し、お客様に信頼される継続企業として、環境保全と向上に努めて参ります。
2. 「紙・ごみ・電気」の低減を定量的に徹底管理し、地球環境の汚染予防をはかって参ります。
3. 独自性のあるイノベーション活動を通して、地球環境の汚染防止をはかって参ります。
4. 「安全・安心・快適」な職場環境を追求し、すべての社員が健康的に働くことのできる環境を実現して参ります。
5. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して環境の保全と向上に努めて参ります。
6. 環境マネジメント・システムは、定期的な内部監査およびマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善をはかって参ります。



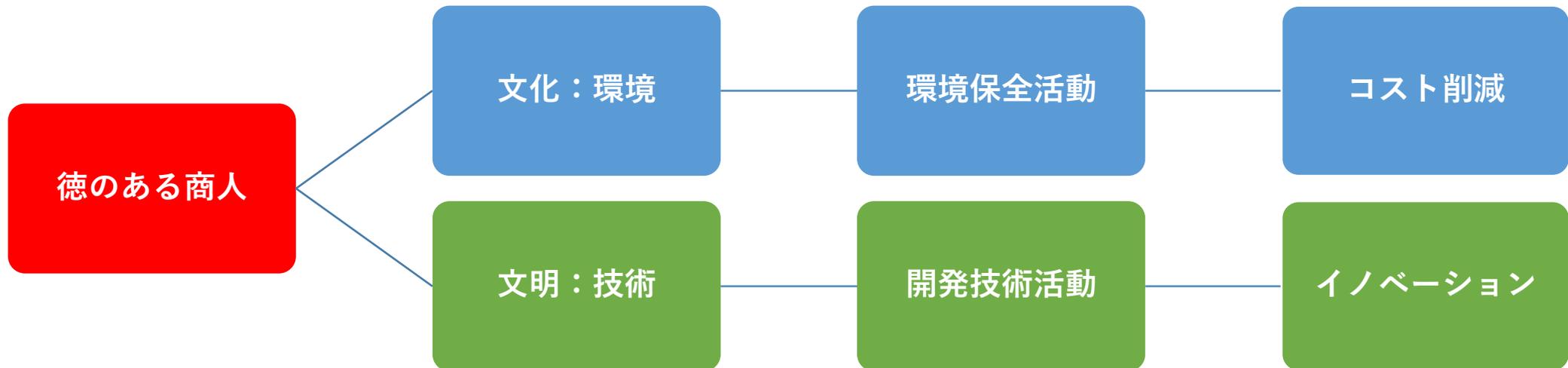
サンシングループ環境経営への歩み

1. 環境経営の基本マインド

* サンシングループ経営理念

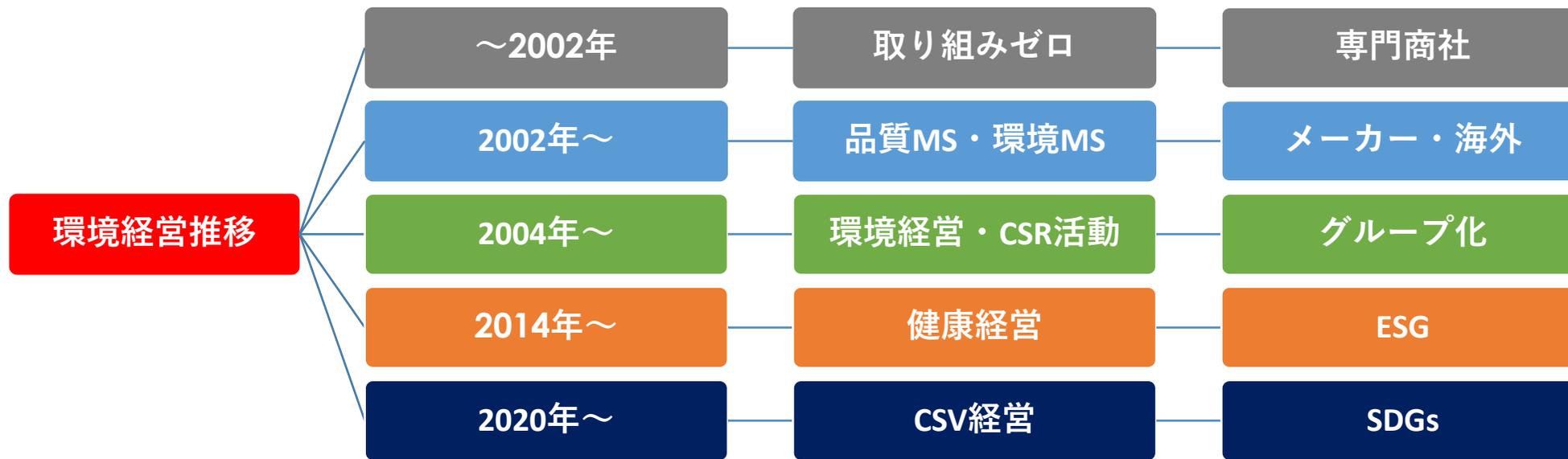
私たちは お客様を愛し お客様から愛される

徳のある商人を目指す：世界の**文化・文明**発展のために



2. 環境への取り組み

2002年から現在までの経緯



2. 環境への取り組み

～2002年

環境対応はコスト増の要因であり取り組む必要はないという認識。

2002年～

専門商社から海外商社，メーカーへと展開するなかで**環境MSを整備**。

2004年～

グループ企業体の発足に伴い**経営理念**を創設。 **CSRを能動的に展開**。

2014年～

健康経営を標ぼう，以後，東京都認定。

2020年～

CSV経営を宣言， **ESGとSDGs**を重視。

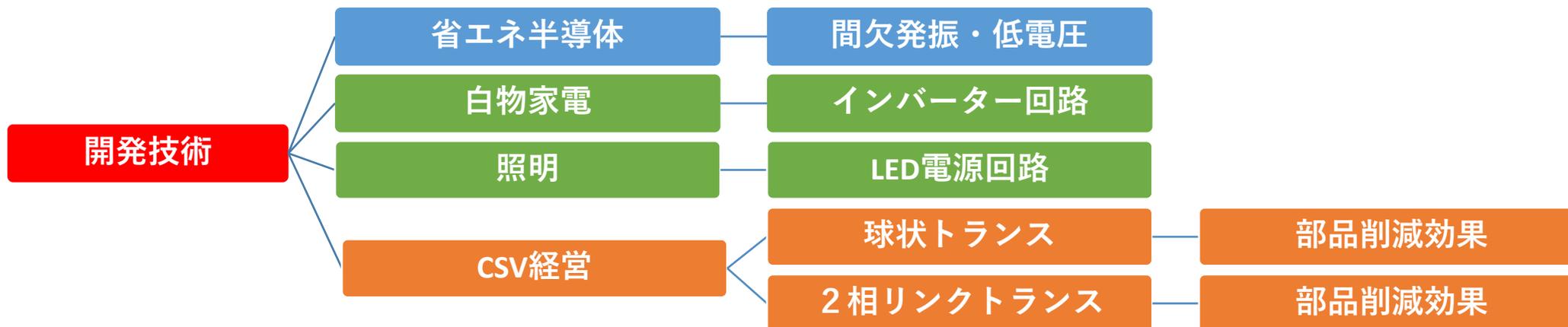
3. コスト削減実績

- **紙/ゴミ/電気**，三種の神器，徹底削減の継続
 - **テレワーク**による電気/交通費削減
 - 環境MS監査費用は増加（リアルコスト）
 - 環境活動時間は増加（バーチャルコスト）
 - コスト削減費用と増加費用の差額をマネジメント
- ⇒ **グループで年間約4,000万円※のコスト削減を実現！**

※2004年度対比

4. イノベーション事例

- ・ 環境保全の開発技術ビジネス



4. イノベーション事例

省エネ半導体

専門商社として拡販

白物家電

白物家電向け**インバーター回路**の設計

照明

LED照明用の回路設計および電源製造

CSV経営

環境保全を鑑みた電子部品を**自主開発**

環境とイノベーションを結び付けた技術開発

CSV経営 モノ×コト = 価値創造

5. Scopeの対応

- Scope 1：該当なし
- Scope 2：電気排出量のみ（J/C/P合計）
『ESGレポート』掲載
- Scope 3：該当事項のみ集計
 - 4：輸送配送
 - 5：廃棄物
 - 6：出張交通費（旅費除く）
 - 7：従業員交通費

6. まとめ

- ほとんどのSME他社が取り組んでいない項目だからこそ「進取の精神」で取り組みます！
- 事業活動の中で可能な小さいことからコツコツ継続します！
- 環境保全活動はコスト削減とイノベーションのきっかけになります！
- サンシングループはこれからもサステイナブル企業としてサステイナブルな社会のために環境保全活動に取り組みます！

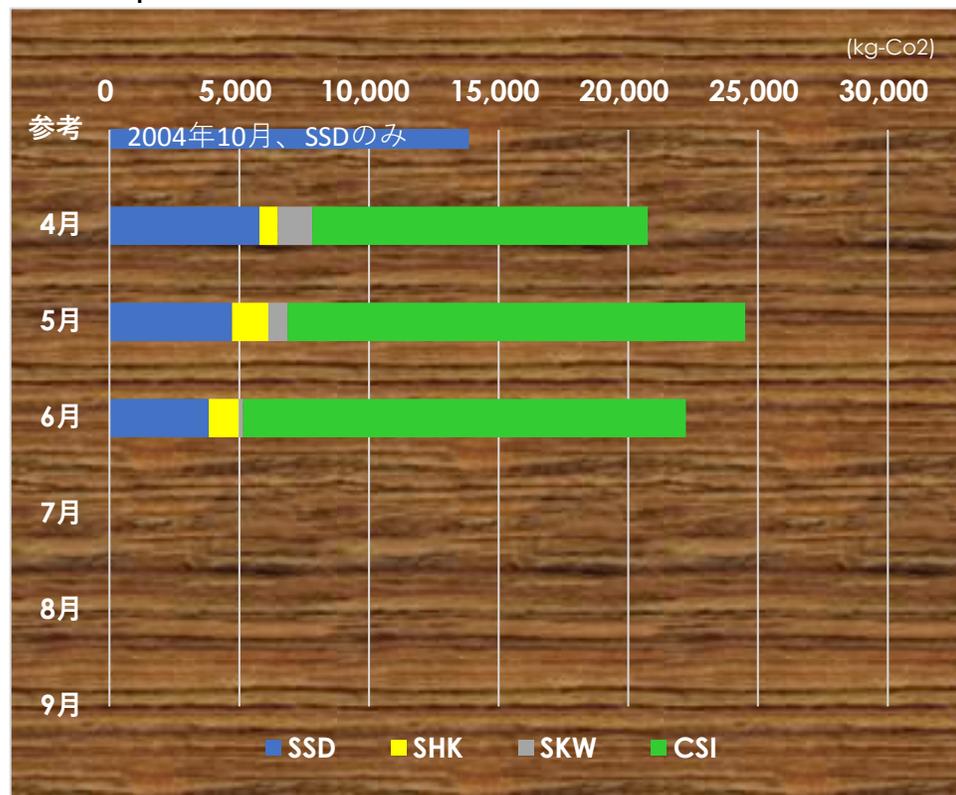


活動報告

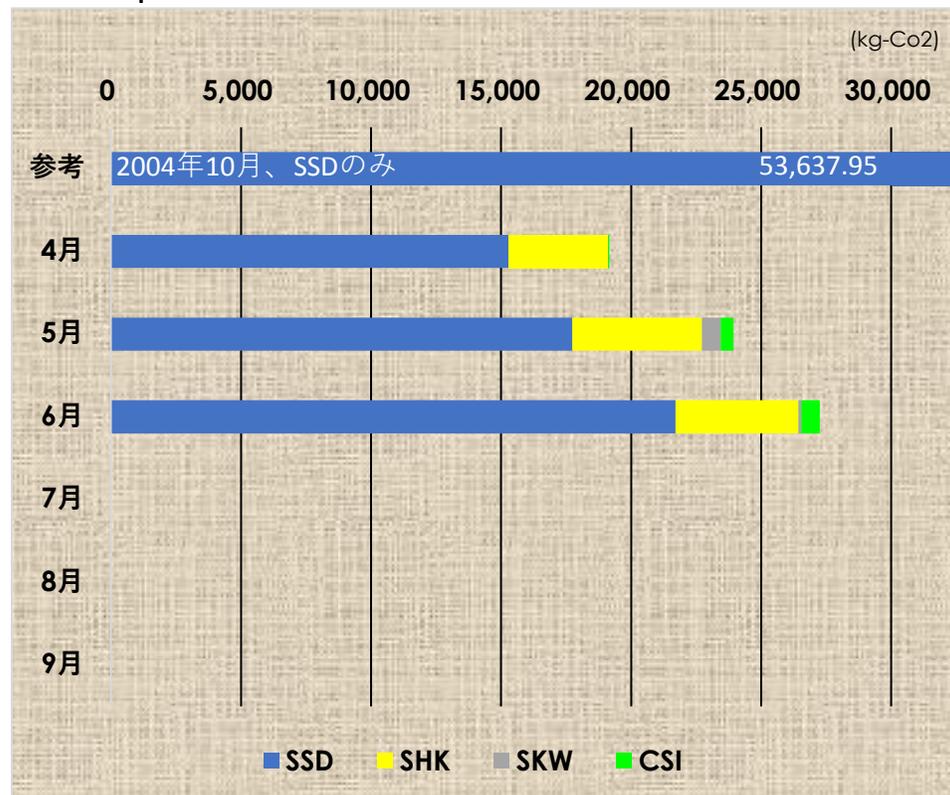
- ① サプライチェーン排出量
- ② 廃棄物排出量
- ③ 電力使用量

SSGサプライチェーン排出量

- Scope 1：該当なし
- Scope 2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）



- Scope 3（事業者の活動に関連する他社の排出）



一般廃棄物 (SSD/本社)

月次/棒グラフ(kg)

累計/折れ線(kg)



一般産業廃棄物 (SSD/本社)

月次/棒グラフ(m³)

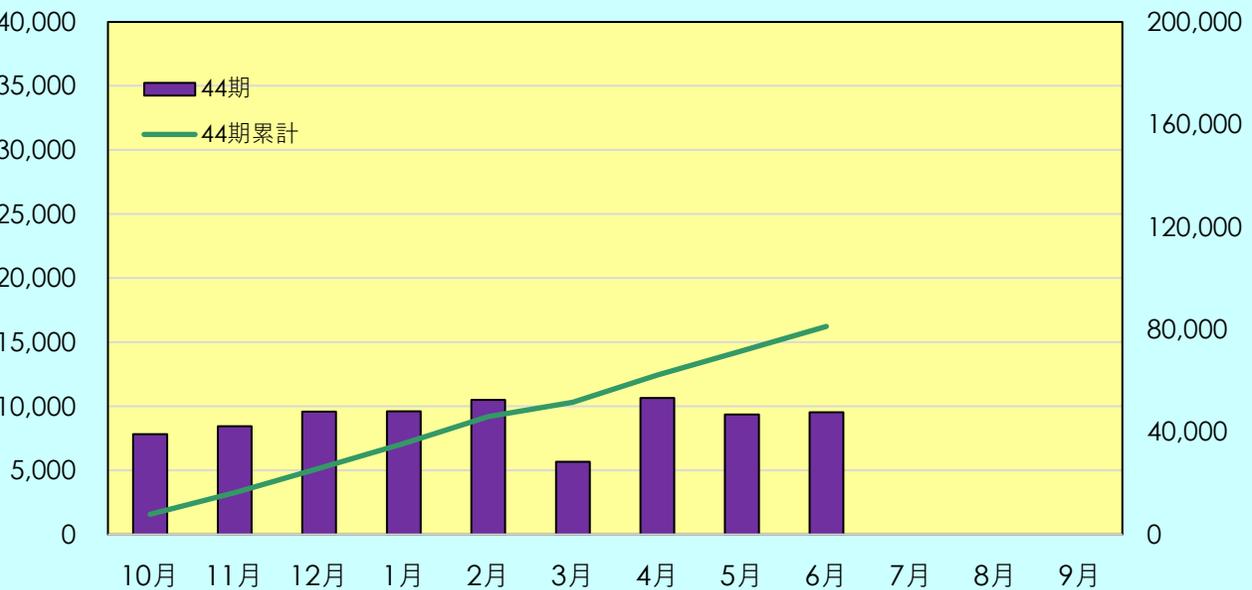
累計/折れ線(m³)



廃棄物処理金額 (累計)

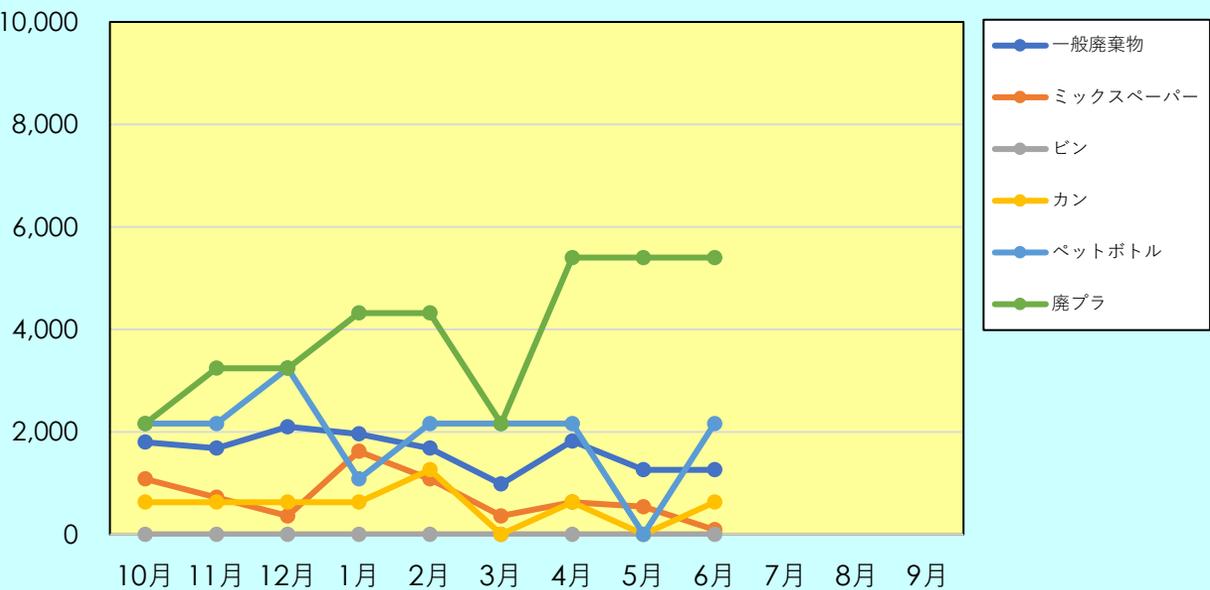
月次/棒グラフ(円)

累計/折れ線(円)



44期廃棄物処理金額

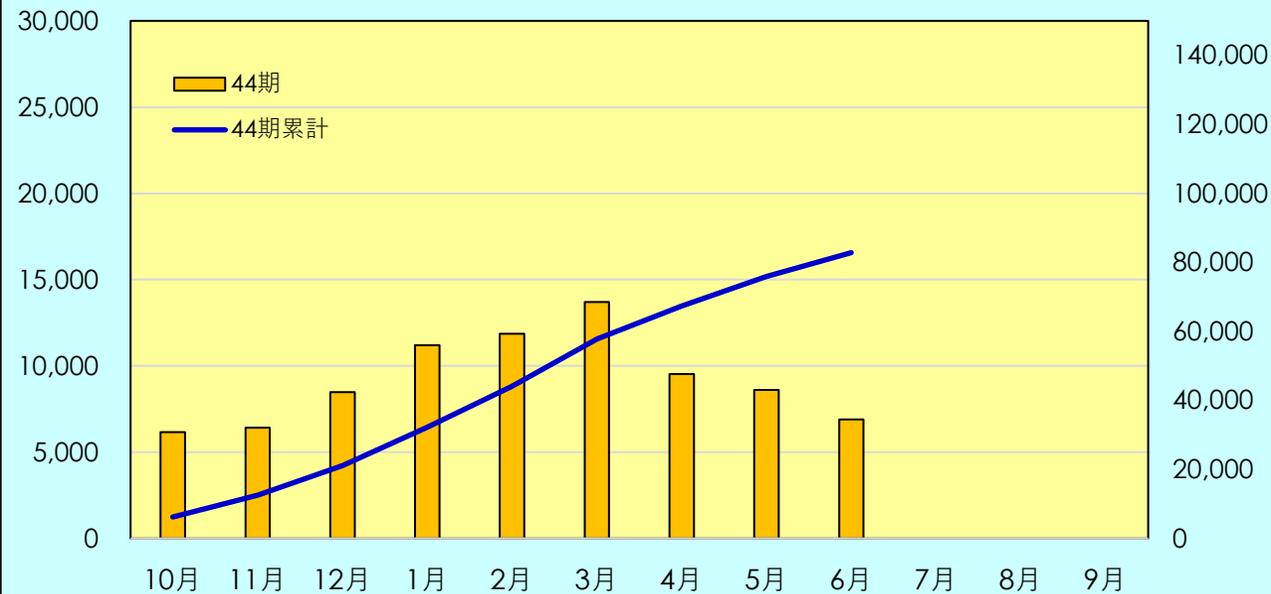
(円)



電力使用量 (SSD/本社)

月次/棒グラフ(kwh)

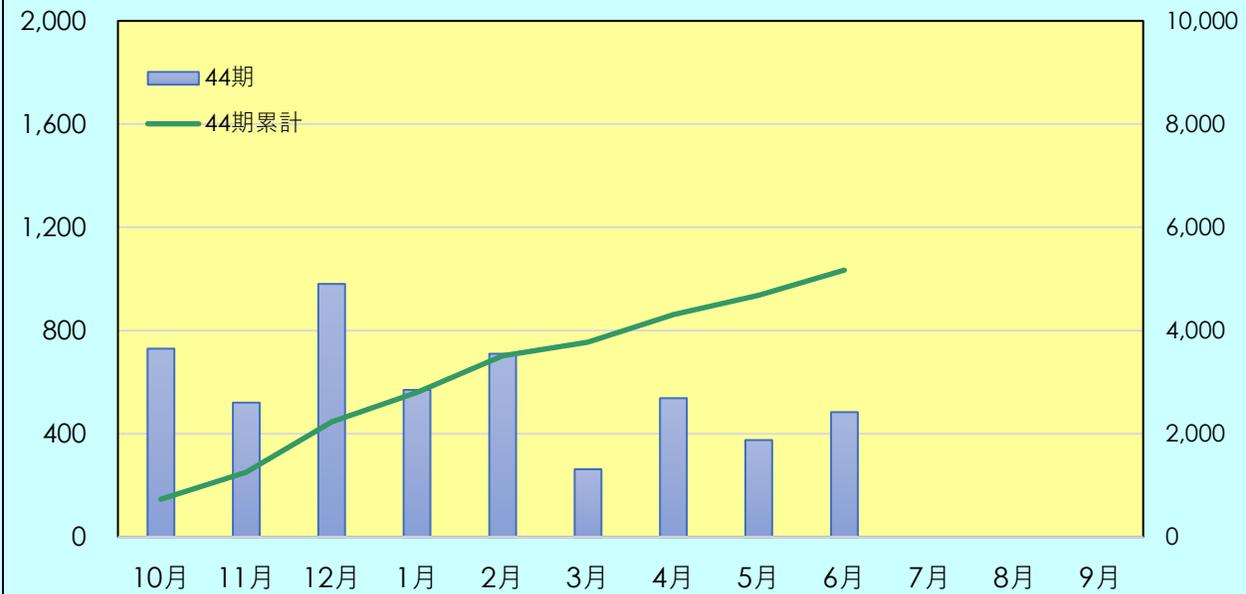
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ(kwh)

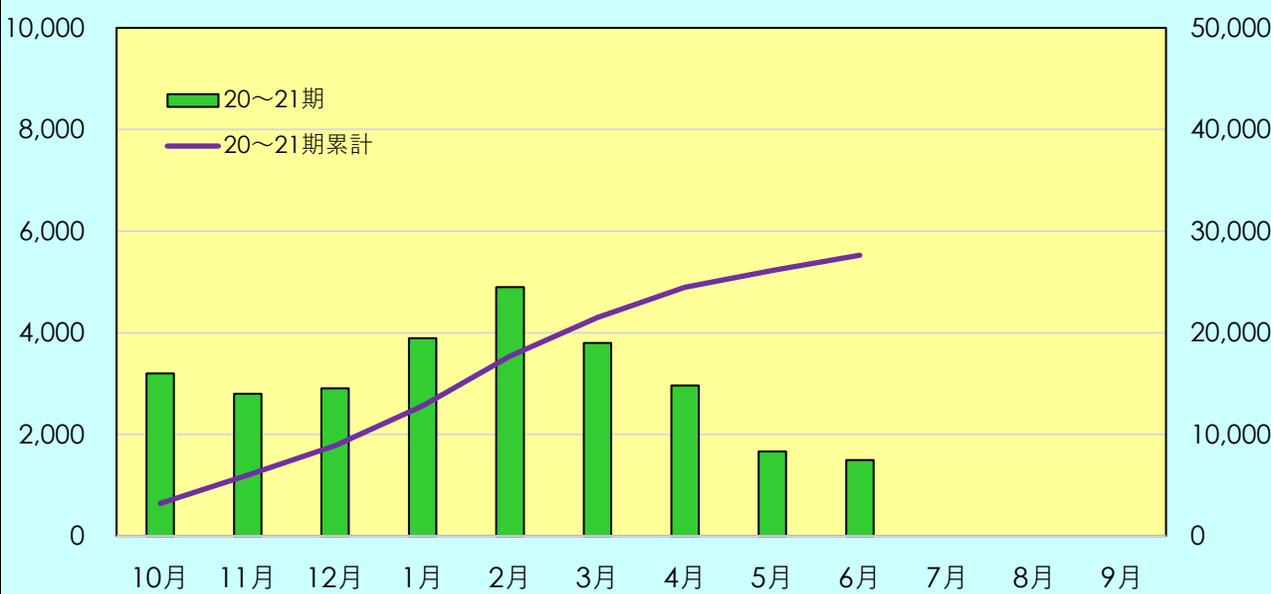
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (SKW/朝日工場)

月次/棒グラフ(kwh)

累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (CSI)

月次/棒グラフ(kwh)

累計/棒折れ線(kwh)



ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

今月のTOPICS

●一般社団法人ICTマネジメント研究会 第三回学生小論文アワード授賞式を執り行いました！

一般社団法人ICTマネジメント研究会が主催する学生小論文アワードの授賞式を7月22日にオンラインにて執り行いました。

今回は「ICTと社会問題のかかわり」をテーマに小論文もしくはエッセイ形式で募集し、高校生14名、大学生及び大学院生12名（グループなどの投稿も1名とカウント）からの応募がありました。

オンライン授賞式では3名の優秀賞受賞者を表彰し、審査員の先生方から講評や祝福の言葉が贈られました。優秀賞受賞者には楯・表彰状・商品券が贈られます。

サンシングループではICTマネジメント研究会を通じて、これからもCSR活動を積極的に展開してまいります。



活動報告

- ①地域貢献活動
- ②ワーク・ライフ・バランスへの取り組み
- ③人財育成への取り組み

地域貢献活動

- 地域雇用の促進
- 地域清掃の実施（6月参加人数：延べ3名）
- ハンディキャップのある方々の自立を目指すお弁当宅配センターから会議用お弁当を購入
- インターンシップ実習生の受け入れ（日本、中国、マレーシア）
- 近隣の小中学校へ新聞を寄贈
- 企業メセナとして日本のワインや日本酒を購入（ミタスライフ）
- 動物介在ボランティア活動実施（ミタスライフ）
※2020年8月時点では、コロナ禍により活動を休止しています。
- 学習塾において生徒のコーチング＋学習支援事業を実施（ミタスライフ）

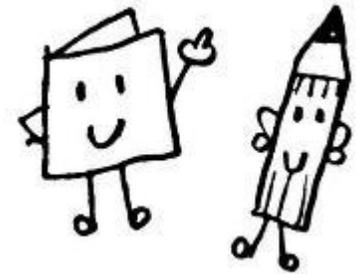


ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- 育児休業中も休業前のほぼ半額の給与支給。行政と併せてほぼ全額受給可能（累計実績5名）
- 育児短時間勤務中も、通常と同額の給与支給（累計実績6名）
- こども手当の支給（中学生未満）
- ご家族の急な病気やご家庭の事情、社会情勢に合わせて、在宅勤務又はテレワークが可能
- リフレッシュ勤務制度（勤務間インターバル制度）の導入
- 時間単位の有給休暇取得制度の導入
- 年2回実施の人事考課にて、ご両親または20歳以下の子供を扶養している社員への加点実施
- 勤続表彰者への特別休暇の付与及び記念品を贈呈
- 毎年1回、全社員対象に健康診断を会社負担で実施
- 東京都の「感染症対応力向上PJT」に参加し、コースⅠ（感染症理解のための従業者研修）達成（2016年1月）、コースⅡ（感染症BCPの策定）達成（2017年12月）⇒2020年8月「感染症BCP」を新型コロナウイルス感染予防対策も含め更新！
- 全国健康保険協会東京支部より「健康優良企業・銀の認定証」取得（2022年5月更新）⇒6年連続！
- 経済産業省・日本健康会議より「健康経営優良法人2021（中小規模法人部門）」の認定取得（2017年～2021年）
- 東京都より「スポーツ推進企業」、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」の認定4年連続取得（2017年～2020年）
- メンタルヘルスケアの一環として従業員用オンライン相談フォームを設置（海外拠点からも投稿可能、匿名でも投稿可能、秘密厳守）

人財育成への取り組み

- ▶ 社内にサンシン大学（SSU）を設置。経営・法務・税務・情報セキュリティ・新製品紹介・ビジネス英会話・健康促進法・eラーニング等の講義を開講（World-wideでSkype配信実施。就業時間内に開講。会社が費用負担）
- ▶ サンシングループ石井代表と選抜メンバーによる「CSV研究会」を開催中
- ▶ サンシン大学への出席実績は、年2回の人事考課で加点対象
- ▶ 自己啓発支援制度により、MBA取得や資格取得を積極的に支援（毎年3～4名利用）
- ▶ 簿記、ビジネス実務法務検定、TOEIC・英検の取得により職能給UP
- ▶ 他社での技術研修、経理実務研修等を実施
- ▶ 年に1度、好業績を残した社員に対して社員表彰を実施
- ▶ “情報共有システム（Intelligence Shared Systems）”の活用により、日々PDCAP’を全社で共有し、TOP MANAGEMENTとの直接のコミュニケーションが可能
- ▶ 一般社団法人ICTマネジメント研究会による「学生懸賞論文」の実施（毎年開催）



サンシングループの経営理念とCSR

We love our customers,
We're loved by our customers,
Always be a Virtuous Merchant
to contribute to Cultures and
Civilizations around the World.

サンシングループのCSRは、経営理念を全役員・全従業員が共有し、100%のコンプライアンスを大前提として、企業活動の中で経営理念を実践していくことです。

コンプライアンスの基礎となる品質マネジメント・マニュアル及び環境マネジメント・マニュアルを策定・導入し、サステナブルな企業として永続的に電機業界及び社会の発展に貢献して参ります。また、ステイクホルダーとの信頼関係の構築を通して、社会の公器として企業の社会的責任（CSR）を果たして参ります。

経営戦略体系と管理会計のかかわり



サンシングループの社会的責任

サンシングループは、企業はステイクホルダーをはじめとする社会全体と共存して繁栄し、社会的責務を伴う存在であると考え、以下の取組みを実施しています。

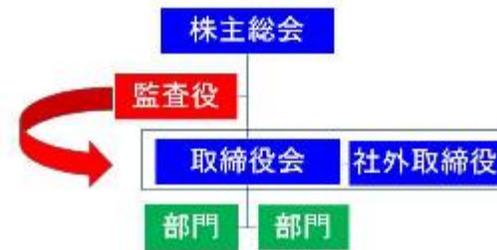
■ コーポレートガバナンス

経営者がコンプライアンスに準じた行動をしているか、コーポレートガバナンスにより、内部の業務監査を行っています。

■ CSR及び環境経営（ESG）

サンシングループではCSRに環境経営、品質保証、危機管理などの要素を含め、ホームページで活動内容を発信しています。特に環境経営はISOなどの環境マネジメントシステム（EMS）と連携した活動を実施しています。

コーポレートガバナンスと機関の役割



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、13ページ。

CSRの基本的要素



CSRの新たな要素



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、14-16ページ。

サンシングループの企業行動基準

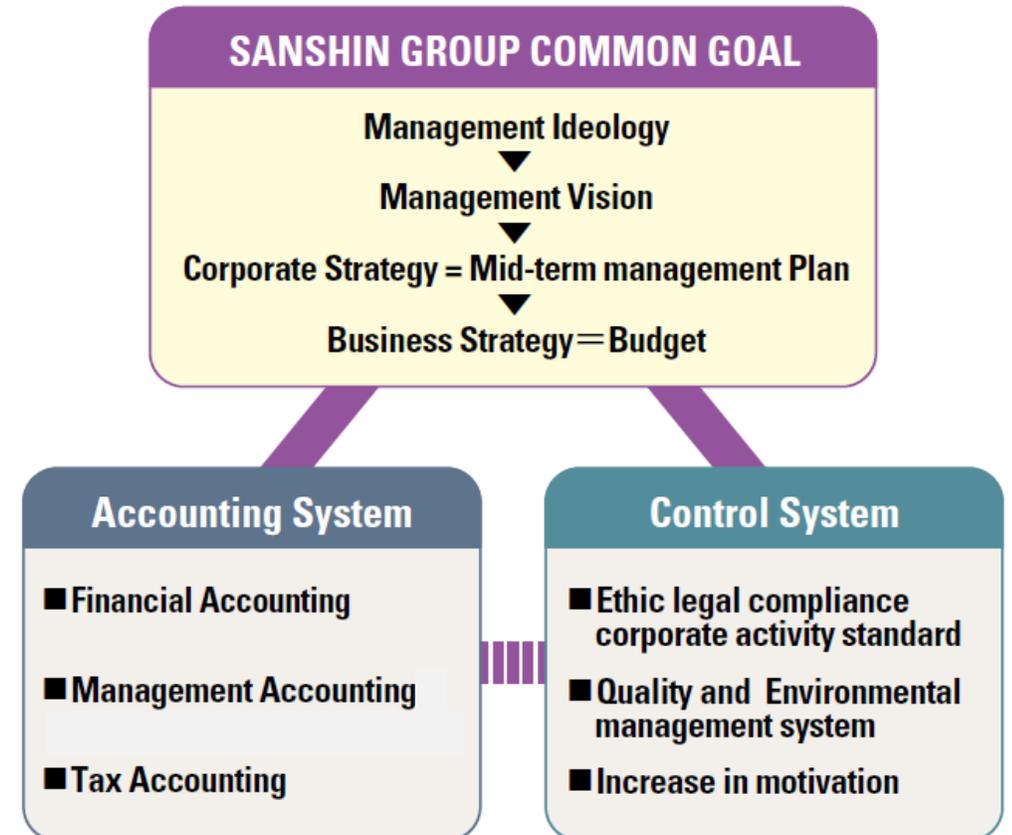
サンシングループの倫理法令遵守企業行動基準は、「経営理念」を実践するために、企業倫理とコンプライアンスの観点から、基本的な姿勢を以下の通り定めています。

1. 私たちは、常に社会人としての自覚を持ち、高い倫理観に基づき、社会的良識に従って行動します。
2. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、関係法令および社内規定はもとより、利害関係者と取り交わした契約や約束を常に遵守し、全ての企業活動が正常な商慣習と企業倫理に適合したものになるよう努めます。
3. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、全ての人の基本的人権と個性を尊重し、オープンなコミュニケーションに努めます。
4. 私たちは、全ての利害関係者に対し、誠実に接するとともに、公平・公正かつ透明な関係を維持し、フェアな取引を行います。
5. 私たちは、会社の正当な利益に反する行為や会社の信用・名誉を損ねる行為を一切行いません。

サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループは、経営戦略達成のため、「アカウントティング・システム（財務的：定量的管理）」と「コントロール・システム（非財務的：定性的管理）」という2つのシステムから成るマネジメント・コントロール・システムズを導入しています。

このマネジメント・コントロール・システムズの「コントロール・システム」の基軸となるものとして、当グループ独自の品質マネジメント・マニュアルがあります。この品質マネジメント・マニュアルに基づき、ISO9000シリーズに準拠した品質方針、および環境マネジメント・マニュアルに基づき、ISO14001やエコステージなどの環境方針を策定しています。これらの方針に従い、コンプライアンス・品質・環境・地域貢献・人財育成等のCSR活動に努めています。



サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループでは、形式知化された業務をルール化し、業務フローと業務マニュアルを策定しています。

■ マネジメント・システム

マネジメント・システムにより業務を標準化し、企業活動に安定した品質をもたらしています。

■ 5W2HとPDCA→P' サイクル

PDCA→P' サイクルは計画策定のPlan、計画を実行するDo、計画と実行の差異を評価するCheck、評価から修正と改善を行い次のPlan(P')につなげるActionから構成されます。サンシングループでは情報共有システムなどを活用して、5W2Hを明示し、プロセスの進捗を可視化/共有しています。

マネジメントシステムの基本構成

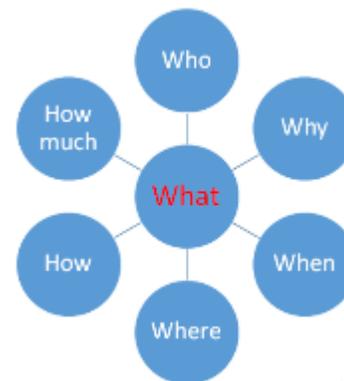


マネジメントシステムのレビュー



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、48ページ。

ビジネスの5W2H



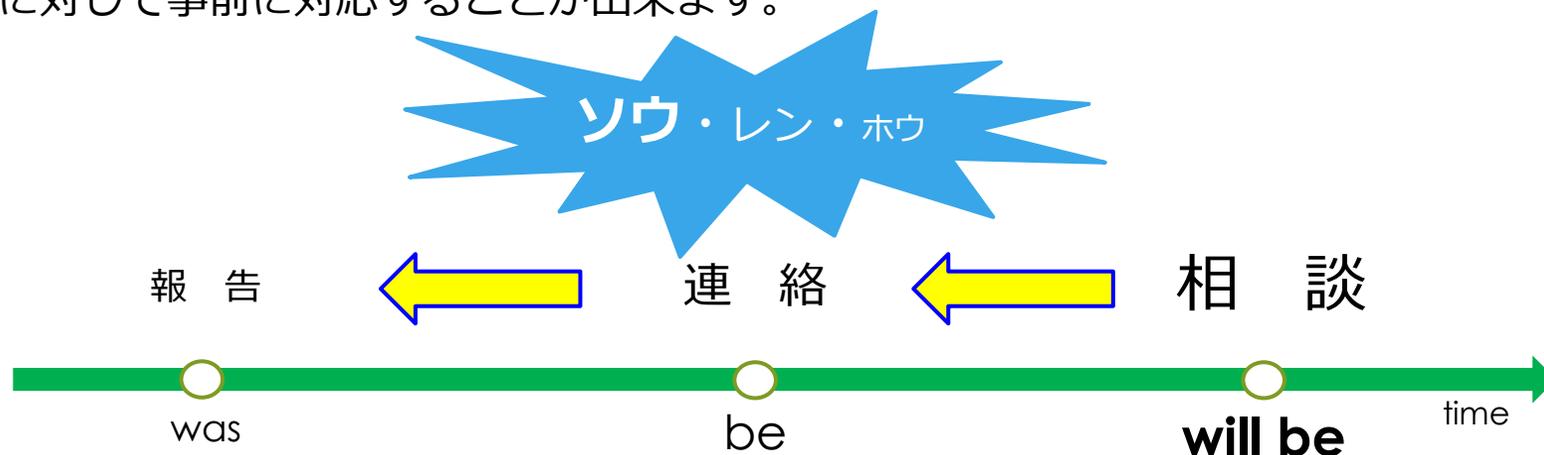
PDCA→P' サイクルの概念



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、42ページ。

未来形から問題を解決するソウレンホウ

サンシングループでは悪い問題は過去形になる前に潰すことが重要と考え、一般的に言われるハウレンソウ（報告・連絡・相談）ではなく、ソウレンホウ（相談・連絡・報告）を励行しています。ソウレンホウにより、過去形（報告）ではなく未来形（相談）と現在形（連絡）の情報を共有し、予測される問題に対して事前に対応することが出来ます。



出所：石井 宏宗[2011]『経営とは生きること -企業家に求められる3つの視点-』税務経理協会、166ページ。



編集
後記

SSD, 営業管理課 Y.Y.

...とにかく暑いです。連日猛暑が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。毎年毎年この時期になりますと熱中症にご注意を！とあちこちで聞くようになります。我慢せず、少しでも熱中症の疑いがある場合は速やかに受診するようにして下さい（脳への障害が出る場合もあるようです）。